

有機養蜂への挑戦

園芸デザインクラブ 森直人 素川 勇

養蜂業界において、一番問題になっているのはミツバチヘギイタダニの寄生門田である。このダニがミツバチに寄生すると、免疫力が低下して、蜂群が維持できないことである。このダニの駆除方法であるが、決定的な対策がなく世界中で問題になっている。今回は、このミツバチヘギイタダニの駆除を行いミツバチの強群を維持する方法についての研究を行った。

ミツバチヘギイタダニ (*Varroa destructor*) は、ダニ目ヘギイタダニ科に属するダニの一種。セイヨウミツバチやトウヨウミツバチを始めとするミツバチの寄生虫で、バロア病と呼ばれる寄生虫病を引き起こす事が知られている。被害は世界中に拡大・深刻化しており、発生源の1つと考えられている日本ではその被害の大きさにより日本の侵略的外来種ワースト100に指定されている。



【 ミツバチヘギイタダニ 駆除対策 】

以下のような、物理的・化学的駆除方法がとられてきた。

- ◆雄峰房トラップ法 雄峰巣房をトラップとして雌ダニを誘い込み、封蓋後に処理する駆除
- ◆粉糖法と粘着シート 巣箱の上棧または巣脾の全面に粉糖を振りかける蜂の体表からダニが落下する。巣箱底にネットを設け、無害な粘性物質を塗ったボードを敷き落下したダニ取り除く。
- ◆殺ダニ剤 化学農薬 「アピスタン・アピパール・アピガード・アピライフバー」等を使用。ダニが抵抗性を持ち効果はほとんどない。
「チモパール」 チモールを使用したオーガニック駆除剤。ダニは抵抗性を持たず、有効ではあるが完全には除去できない。



化学農薬を使わず、シュウ酸を使用して除去する方法が主流になってきた。



シュウ酸を気化させて、巣内のミツバチヘギイタダニを除去する方法が普及してきている。シュウ酸は化学農薬ではなく、有機養蜂として取り扱われている。シュウ酸は取り扱いに注意する必要がある。シュウ酸を気化させて、巣内に気体状態のシュウ酸を蔓延させて、ミツバチに寄生しているダニを除去する。ダニは死なないが、ミツバチの体から離れる。離れたダニは再びミツバチに寄生する力がないため、除去できる。

8月から11月まで、月に2回シュウ酸処理を行った。ダニに寄生されたミツバチ群は弱り冬を超えないものが多い。現在冬ごもり中であり、無事冬越しをしたかどうかは、3月以降に判明する。